I-2

鉄道高架下における保育施設に関する研究

Study on child-care facility in the under railway viaduct

○鈴木 孝之[1]，八藤後 猛[2]，中田 弾[3]
*Takayuki Suzuki[1], Takeshi Yatogo[2], Dan Nakada[3]

The issue of waiting-list child is serious in the metropolitan area of our country. In late years, as one of the measures, a child-care facility installed in the under railway viaduct is born and is expected when it will increase in future. I pushed forward a study to clarify the present conditions and the space characteristic of the child-care facility in the under railway viaduct. As a result, it was revealed thing that the child-care facility in the under railway viaduct, that had a problem with about the sunshine and that the measures to a pillar were important.

１．研究背景

近年, 核家族化の進展や共働き世帯の増加によって保育所の需要は高まっていて, それに伴い待機児童の問題も抱えている. 保育施設は毎年新設され, 全国の待機児童数は減少傾向にあるものの平成 26 年 4 月で 21371 人と依然として高い数値を保っている(図 1). 首都圏(東京, 神奈川, 千葉, 埼玉)の待機児童数をみると, 平成 26 年 4 月で 11907 人であり, また全国の待機児童数に対する首都圏の待機児童数の割合をみると, 55.7%となっている. このことから、全体の半数以上の待機児童が首都圏に存在していて, 首都圏の待機児童問題は深刻である(図 2).

首都圏では, 待機児童問題の対策のひとつとして駅ビルや駅に隣接するオフィスビルなどに駅型保育施設が設けられるようになった. 2000 年にはこれまで地方自治体と社会福祉法人に限定されていた保育所の設置主体の制限が撤廃され, NPO・学校法人・その他の法人・株式会社といった社会福祉法人以外の民間主体でも保育所の設置が可能になった. そこで, 高架下に保育施設が設置される事例がでてきた. また, 鉄道駅のバリアフリー化に関する国の支援制度である地域公共交通確保維持改善事業補助金の補助対象が, これまでは既存の鉄軌道駅におけるバリアフリー化を進めるための“バリアフリー化設備整備事業”のみだったが, それに“利用環境改善促進等事業”が加えられ, 保育所等の子育て支援に係る施設及び医療施設の整備をするための事業も対象となった. そのため, 今後も高架下の保育施設は増加していくと考えられる.

２．研究目的

これまで駅型保育施設に関する研究はなされているが, 高架下に設置されている保育施設に着目した研究は未だなされていない. そこで本研究では高架下における保育施設の現状や空間特性を明らかにすることで, 高架下における保育施設の今後のあり方に関する知見を得ることを目的とする.

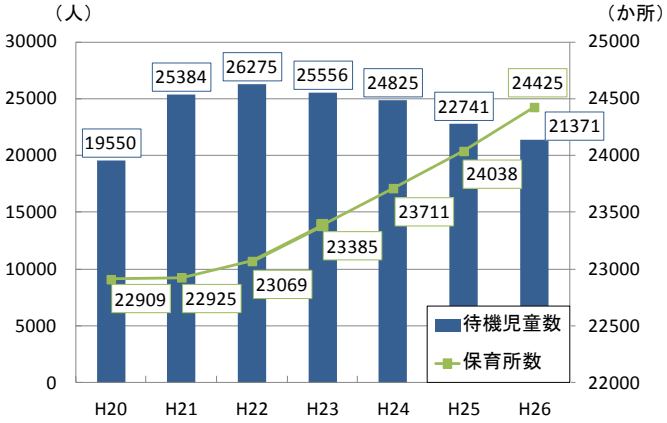

図 1　全国の待機児童数と保育所数

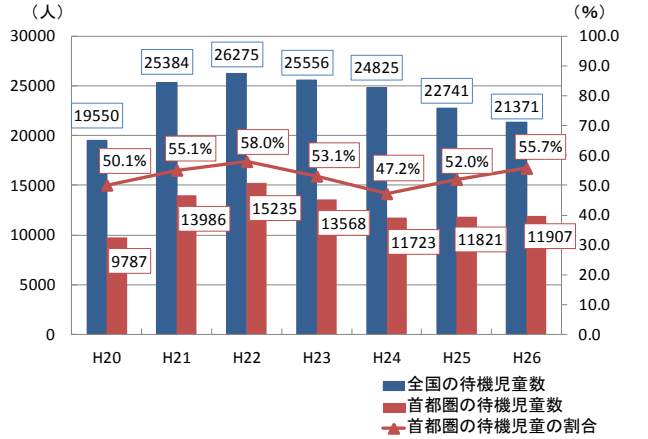

図 2 首都圏の待機児童数と首都圏の待機児童数の割合

１：日大理工・院（前）・建築　２：日大理工・教員・まち　３：日大理工・教員・建築

３．訪問調査

高架下における保育施設の現状を把握するため,首都圏の高架下に設置されている 2 つの保育所を訪問し,目視による視察と保育所の職員に対して施設に関するヒアリングを行った. 調査概要を表 1 に示す.

３－１．訪問調査結果

・居室の音環境

A 保育所, B 保育所ともに電車の通過音は静かな時に分かる程度であまり気にならないと回答した. また, 子どもたちが通過音を嫌がったり, 怖がったりすることもなく, 昼寝の際に通過音で子どもたちが起きたりすることもないとの回答が得られた.

・居室の明るさ

A 保育所, B 保育所ともに大きな窓が設けられており, さらに B 保育所では仕切りを透明にするといった工夫がみられた. また,端しか日が当らない, 日が入らない側の居室は少々暗いといった回答も得られた.

・高架の柱の影響

A 保育所では高架の柱が死角となって園児が見えなくなることや園児が高架の柱にあたりそうで怖いと感じることがあるため, 高架の柱を考慮して職員を配置したり, 高架の柱を基準に家具等のレイアウトを考えているとの回答が得られた. B 保育所では高架の柱と棚を組み合わせ壁とすることで不自然な位置に高架の柱が出てこないようにしていたり, 高架の柱を上手く使い収納に利用しているため, 高架の柱が気になることはないと回答した(図 3, 図 4).

・園庭の利用

A 保育所では園庭が棟と棟の間にあるため, 天気に関わらず園庭を利用して遊ぶと回答した(図 5). B 保育所では晴れの日は園庭で遊ぶが, 雨の日は園庭の 3 分の 1 程度が雨に濡れるため, 園庭を利用することはできないと回答した(図 6).

３－２．訪問調査考察とまとめ

高架下の保育施設では, 大きな窓を設けたり, 仕切りを透明にするという工夫がみられた. これは, できるだけ自然光を居室に取り込み, 窓に面していない居室にも光が届くようにしていると考えられる. このように, 自然光を活かす工夫を凝らしていることがわかった. また, その一方で一部分にしか日が当らない, 日が入らない側の居室は少々暗いといった日照に関する問題があることもわかった. 高架の柱との関係は保育環境に大きな影響を与える. そのため, 柱への対策が非常に重要であると考えられる. 園庭の利用では, 高架橋の直下にある園庭において雨の日も利用することができ, このことを利点に感じていることがわかった.

表 1　訪問調査概要

	A保育所	B保育所
調査日程	2014年8月21日	2014年8月26日
保育所所在	千葉県市川市	東京都世田谷区
保育所区分	認可保育所	認証保育所
構造	鉄骨造(平屋)	軽鉄骨造(平屋)
延べ床面積	994㎡	302.20㎡
定員	120名	40名
調査目的	高架下における保育施設の現状を把握するため	
調査内容	音環境、居室の明るさ、柱の影響、園庭利用、公園利用、施設の工夫点、その他良い点・課題・改善したい点	

図 3 B 保育所高架の柱部分

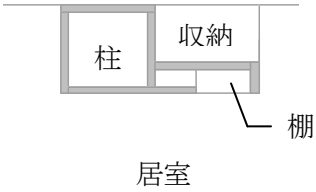

図 4　B 保育所図面

図 5　A 保育所園庭

図 6　B 保育所園庭

４．今後の展望

今後は訪問調査に加えて, アンケート調査を行うことで, 高架下における保育施設の実態や課題等を明らかにしていく.

５．参考文献

[1] 厚生労働省：保育所関連状況取りまとめ（平成 26 年 4 月 1 日）, 平成 26 年 9 月 12 日

[2] 国土交通省：鉄道駅のバリアフリー化の推進 ～高齢者や障害者に優しい社会のために～

[3] 小林一郎:「ガード下」の誕生 鉄道と都市の近代史, 平成 24 年 4 月 10 日